

# 水稻の生育状況と当面の対策

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>

第 4 報  
千葉県農林水産部  
令和元年6月27日

## 「コシヒカリ」の幼穂形成期は平年並み

### ほ場をよく見て穂肥や水管理等を適切に

#### [ 生育概況 ]

4月20日に移植した「ふさおとめ」、「ふさこがね」は平年と比較して「並」～「やや早」となっており幼穂形成期を迎えています。また、4月20日に移植した「コシヒカリ」は6月19日頃（平年より2日早い）から幼穂形成期を迎え、追肥時期となっています。また、5月1日に移植した「コシヒカリ」は平年並みの6月28日頃から幼穂形成期となる見込みです。

なお、4月植え「コシヒカリ」の一部のほ場では、過繁茂で推移しています。倒伏や品質低下を避けるため、穂肥の施用時期及び施用量に注意しましょう。

表1 品種別の生育状況（6月25日現在）

品種	植付時期	平年比※1			
		生育進度※2 (幼穂形成期※3)	草丈	茎数	葉色
ふさおとめ	4月20日	並(6月13日)	並	やや多	並
ふさこがね	4月20日	やや早(6月14日)	並	やや多	並
コシヒカリ	4月20日	並(6月19日)	並	やや多	並
	5月1日	並(6月28日)	並	並	並
ふさのもち	4月20日	やや早(6月17日)	やや短	多	やや淡
	5月10日	並	並	やや多	並

※1 平年比は過去10か年（2009～2018年）の平均値との比較

ただし、「ふさのもち」は過去9か年（2010～2018年）の平均値との比較

※2 幼穂形成期の実績値および予測値により判断

※3 幼穂形成期は、農林総合研究センター（千葉市）のほ場

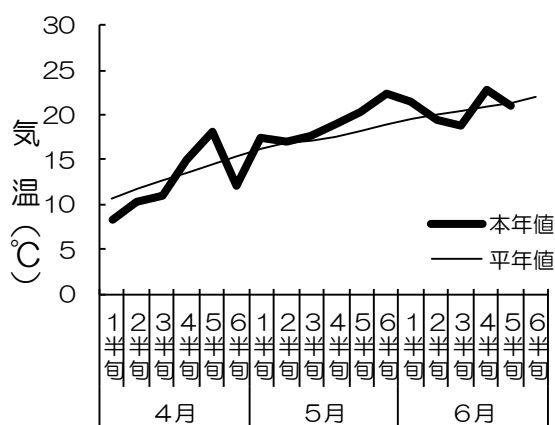


図1 日平均気温の推移（アメダス、佐倉）

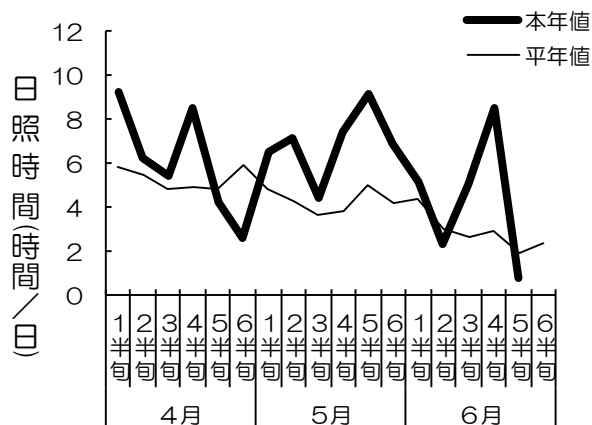


図2 日照時間の推移（アメダス、佐倉）

# [ これからの管理のポイント ]

## ■ 穂肥の実施

表2 品種別・地域別の幼穂形成期予測及び穂肥施用適期の目安

品種	植付時期	幼穂形成期予測				穂肥施用適期の目安
		県北 (香取市)	九十九里 (茂原市)	内湾 (千葉市)	県南 (館山市)	
コシヒカリ	4月20日	6月25日	6月19日	6月19日	6月20日	幼穂形成期7日後頃～ 15日後頃の間 【幼穂長1cm～8cm】
	5月1日	7月1日	6月28日	6月28日	6月29日	
	5月10日	7月6日	7月3日	7月3日	7月4日	
飼料用米 (アキヒカリ)	5月15日頃	6月26日頃～				幼穂形成期前5日頃から幼穂形成期後5日頃 (ただし、最高分げつ期に葉色が低下した場合は、すぐに追肥)
飼料用米 (夢あおば)	5月15日頃	7月3日頃～				

(※) 幼穂形成期は、水稻作柄安定対策調査結果の実測値及びH28千葉県試験研究成果普及情報を基に予測。

品種別・地域別の幼穂形成期予測及び穂肥施用適期の目安(表2)を参考に、穂肥を施用しましょう。各品種の10a当たりの施肥量は、窒素と加里を成分量で各3kg(房総南部の粘質土では、窒素成分を「コシヒカリ」は2kg)です。

近年、秋の長雨・台風により倒伏がみられます。「コシヒカリ」は、幼穂形成期の目標生育量(表3)を参考に、施肥量を調整しましょう。

表3 幼穂形成期における「コシヒカリ」の穂肥・倒伏軽減剤の要否判定

葉色 (SPAD値) × 莖数 (㎡当り)	カラースケール値 (※)			草丈 (cm)	予測される生育・収量	対策		
	3.5	4	4.5			穂肥加減	穂肥時期	倒伏軽減剤
16,000以下	560以下	490以下	440以下	70cm未満	籾数が不足し、やや減収	増肥、または時期を2～3日早める。		
16,000～20,000	560～700	490～600	440～550			目標どおりの生育が期待	標準量	標準
20,000～27,000	—	600以上	550以上	75cm未満 75～82cm	籾数確保のため穂肥は必要 稈長が伸び、倒伏が心配	標準量	標準	必要
						籾数過剰となり、乳白米の発生が心配	減肥(窒素施用量1～2kg/10a)して時期を遅らせるか、または無施用。	
					稈長が伸び、倒伏が心配	×	×	必要

(※) カラースケール値とおおよその莖数(㎡当り)の対応は、SPAD値とカラースケール値との換算式に基づき、目安として示した。

## ■ 水管理（用水を大切に）

### ○低温時には湛水

幼穂形成期以降に日平均気温 20℃以下の低温の持続が予想されるときは、冷害防止のために深水で湛水（保温）しましょう。特に冷害危険期とされる幼穂形成期後 10日～15日（出穂前 15～10日）（表 2 を参照）は、湛水の深さを 20cm 程度とします。飼料用米の「アキヒカリ」「夢あおば」は耐冷性が弱いため、特に注意しましょう。

### ○適正な水管理で乳白米の発生を防止

中干し後は間断かんがいを行い、その後、幼穂を確認したら入水を開始し、出穂 3 週間前から出穂 2 週間後までは湛水管理（※）を行います。

特に、出穂期から出穂 2 週間後は、米の品質を決定する重要な時期です。登熟期の水不足は、乳白米等の白未熟粒の多発生による品質低下の原因になります。湛水管理をしっかりと行い、品質低下を未然に防ぎましょう。

（※）自然由来のカドミウムの吸収を抑えるためにも必要な技術です。

## ■ 斑点米カメムシ類の防除

### ○畦畔の草刈りは出穂 2 週間前まで

出穂期前後の草刈りは、カメムシ類をほ場の中に追い込んでしまいます。畦畔雑草は出穂 2 週間前頃までに刈り取りましょう。

表 4 品種別の出穂期予測

品種	植付時期	出穂期予測（※）			
		県北 （香取市）	九十九里 （茂原市）	内湾 （千葉市）	県南 （館山市）
ふさおとめ	4月20日	7月12日	7月9日	7月8日	7月10日
ふさこがね	4月20日	7月13日	7月10日	7月9日	7月10日
コシヒカリ	4月20日	7月20日	7月14日	7月14日	7月15日
	5月 1日	7月26日	7月23日	7月23日	7月24日
	5月10日	7月31日	7月28日	7月28日	7月29日
飼料用米(アキヒカリ)	5月15日	7月21日頃～			
飼料用米(夢あおば)	5月15日	7月28日頃～			

（※）出穂期は、H28千葉県試験研究成果普及情報を基に予測。

### ○斑点米カメムシ類の防除適期は「穂揃期」と「出穂 15 日後頃」

斑点米カメムシ類は、水田周辺に生息していた成虫が水稻の出穂後に水田に侵入します。防除適期は、成虫飛来期である「穂揃期（出穂期から 2、3 日後）」と、侵入した大型の斑点米カメムシ類成虫が産卵し、卵から孵化する「出穂 15 日後頃」です。

大型の斑点米カメムシ類は、水田に侵入すると産卵し、成虫よりも幼虫による被害が大きく、乳熟期から糊熟期の吸汁によって被害が発生します。

また、カスミカメムシ類は、小さく発見しにくい害虫です。天候と生育の関係で登熟中の籾殻が開く（籾割れ・ふ割れ）と、開いた所等から吸汁し被害を与えます。

出穂が、周辺よりも早いものや遅いものは、集中的な被害を受けることがあるので、特に注意しましょう。

## ○飼料用米ほ場における防除

飼料用米でもカメムシ類をはじめとした病害虫防除は適切に実施しましょう。

農薬は、稲用に登録されている薬剤を使用することができますが、粳米のまま出荷する場合は出穂以降の農薬散布は行えません。ただし、安全性が確認された農薬については、出穂始め以降の散布が認められていますので、最新情報を確認してください。（（独）農林水産消費技術センター [http://www.famic.go.jp/ffis/feed/tuti/21\\_658.html](http://www.famic.go.jp/ffis/feed/tuti/21_658.html)）黄熟期以前に早刈りし、粳米だけを利用するソフトグレインサイレージでは、出穂始め以降の農薬散布は一切行えません。

## ■ いもち病、稲こうじ病、紋枯病の防除

### ○いもち病

止葉などの上位葉に葉いもちの病斑がある場合は、穂いもちに移行し減収するおそれがあることから、穂ばらみ期に治療効果のある薬剤で防除をしましょう。さらに発生が続く場合は、天候等を考慮した上で穂揃期にも追加防除を行いましょう。

### ○稲こうじ病

稲こうじ病は穂ばらみ期が低温の場合や降雨が多い時に発生が多くなります。前年に多発したほ場では防除時期である出穂前に、薬剤防除をしましょう。

### ○紋枯病

紋枯病は、莖数が多いと発生しやすくなります。また、紋枯病による葉鞘の枯れ上がりは倒伏を助長します。近年は飼料用米品種で発生がみられるので注意をしましょう。

表5 いもち病、稲こうじ病、紋枯病の主な防除薬剤

薬剤名	病害名	いもち病	稲こうじ病	紋枯病
ダブルカットフロアブル		○予防・治療		
ノンプラス 粉剤 DL/フロアブル		○予防・治療	○	
ブラシン 粉剤 DL/フロアブル		○予防・治療	○	
カスミン 液剤		○治療		
バリダシン 粉剤 DL/液剤 5				○
モンカット 粒剤/フロアブル				○

(※) 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍率、収穫前日数、総使用回数などが定められています。ラベルをよく読んで、適正に使用しましょう。

## ■ イネばか苗病の抜き取りのお願い

本田でイネばか苗病が発生し放置すると、胞子が飛んで周りのほ場にも伝染します。特に、採種ほ場の周辺で本病が発生すると、優良な種子の供給に支障をきたします。本病の発生が見られたら、採種ほ場の出穂期までに罹病株ごと抜き取り、田んぼから離して埋却処理するか焼却するなどの対応についてご協力をお願いします。